

令和4年度 建設業デジタル化促進モデル事業現場見学会（有限会社 竹村総合建設）

<デジタル化促進モデル事業の実施内容>

導入機器：杭ナビショベル

<工事概要>

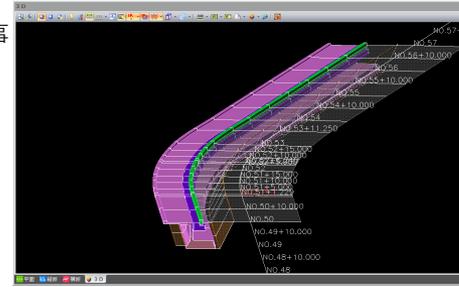
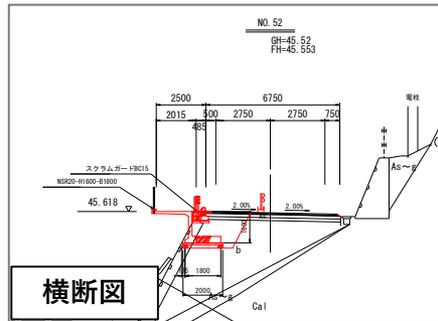
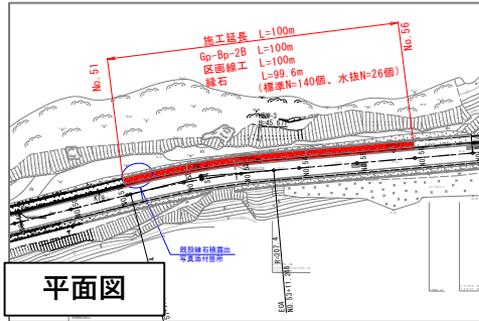
工事名：道交国防安（交安）第402-013-3号国道441号防災・安全交付金工事

請負代金：66,836,000円、工期：令和6年8月14日～令和7年3月17日

工事内容：施工延長 L=100.0m
張出歩道設置 L=100.0m

<参加者>

17名（建設会社：4社8名、県職員：2名、市町村職員：7名）



3次元設計データ作成



プロセス	使用機械等	従来	ICT	効果	評価
3次元起工測量	UAV・TLS起工測量（内製化） 杭ナビ・快測ナビ（内製化）	2人・日	2人・日	0%	-
3次元設計データ	内製化	1人・日	1人・日	0%	-
ICT施工	杭ナビショベル（今回導入）	2人・日	0.2人・日	-90%	法面掘削において丁張設置が不要となり、従来の床均し作業である丁張設置・レベル測量・水糸による計測の必要がなくなり時間短縮と人工削減で生産性向上に繋がった。
3次元出来形管理	杭ナビ・快測ナビ（内製化）	0.5人・日	0.5人・日	0%	-
合計		6.2人・日	3.7人・日	-40%	

施工者のコメント

ICT施工（杭ナビショベル）を活用することで、大幅に時間の短縮と生産性の向上を図ることが出来ました。現場測量において技術者の時間の余裕が出来た事で、現場での拘束時間が短縮され、残業をする必要がなくなりました。今後は、機器の取り扱い方法を従業員一人一人に教育を行う事で益々の生産性向上に向けて尽力してまいりたいと思います。

発注者のコメント

杭ナビショベルの活用により、オペレータのみで法面の掘削作業ができ生産性の向上となっている。また、狭隘な現場での重機作業となるため、安全性の向上にもつながっている。